

せいしょ し と げんこうろく
《聖書》使徒言行録 2:42-47

しよ だい きょう かい
初代教会

し と げんこうろく はじ ころ しんじゃ
使徒言行録によると、初めの頃の信者
だれ いえ あつ さ
たちは、誰かの家に集まってパンを裂い
つた きょう
ていたと伝えられています。キリスト教
せいしき きょう わ
が正式にユダヤ教から分かれるまでには
じ かん はじ
かなり時間がかかったようです。初めは
じ ぶん あつ ば しよ
自分たちの集まるための場所もなかった
だれ いえ あつ
ので、誰かの家に集まっていたし、
とうじ しんでん まい
当時の神殿にもお参りしていましたから、
きょう いっば
ユダヤ教の一派とみなされていました。
さら しんじゃ せいしんてき まじ
更に、信者たちは、精神的な交わりだ
ぶしつてき たが まじ
けでなく、物質的にも互に交わりをし
つた し と げんこうろく
ていたと伝えられています。使徒言行録
もの きょうゆう つた
では、すべての物を共有していたと伝え
じっさい
られています。実際にどうであったか
いま せいしよがくしゃ
は今ではわかりません。ある聖書学者は、
ふくいんしよ きしゃ り そうてき すがた えが
ルカ福音書記者が理想的な姿として描い
かなが し と げんこうろく しゅう
たと考えています。使徒言行録5章によ
かなら ぜんいん
りますと、必ずしも全員がそのようにし
ていたわけではありませんでした。しか
き じ かなが こと しんじゃ
し、この記事から考えられる事は、信者
せいしんてき すく ぶしつてき
たちが精神的な救いだけでなく、物質的

すく かんしん も こと
な救いにも関心を持っていたという事
す。

しん じゃ まじ
信者の交わり

きょう あと ていこく
キリスト教が後になってローマ帝国の
こぎょう せいじ むす ふか
国教になると、政治との結びつきを深め
こと けっか し まいじ
ていく事になります。その結果、司祭自
しん だい とち しよゆうしゃ ひとびお し
身が大土地所有者となったり、人々を支
はい たちば
配する立場になっていきました。
きょうかい すがた ひ はん うご しゅう
こうした教会の姿を批判する動きが宗
きょうかいかく きょうかい
教改革へとつながっていきます。教会が
ひ はん す なお う
その批判を素直に受けとめなかったため
きょうかい
に、カトリックとプロテスタントの教会
わ ころ
に分かれてしまいました。その頃、カト
きょうかい なか さっしん うご
リックの教会の中にも刷新の動きがあり、
しゅうどうせい
アンジのフランシスコのように、修道生
かつ はじ もの せいしん
活を始める者もでてきました。その精神
しよだいきょうかい まじ せいかつ も はん
は、初代教会の交わりの生活を模範とし
ていました。

わたし しゃ しゅうどうしゃ おな
私たちキリスト者は、修道者と同じよ
せいかつ ひつよう たが
うな生活をする必要はありませんが、互
まじ とお たが せいかつ
いの交わりを通して、お互いの生活にも
かんしん も ひつよう おう わ あ こと
関心を持ち、必要に応じて分かち合う事
もと
が求められています。